

# くも膜下出血によって発見された 膠芽腫の1例

研修医2年目 A. N

# 症例提示

- 症例 30歳台男性

## <現病歴>

突然の頭痛を自覚し救急受診、SAHの診断にて同日入院となった。入院中MRI上、鞍上部に2cm大の腫瘍が認められた。

退院後外来通院していたが、夏ころより時々頭痛を自覚、造影CT上腫瘍の増大あり、当院紹介受診、精査加療目的にて入院となった。

# 症例提示

<既往歴><家族歴><処方歴>

特記すべき事項なし

<入院時身体所見>

JCS I-1

右不全対麻痺

# 入院時検査所見

## <血算>

WBC	7100	/ul
RBC	483	$\times 10^4$ /ul
Hb	14.9	g/dl
Ht	44.1	%
Plt	28.8	$\times 10^4$ /ul

## <凝固>

PT	100<	%
PT-INR	1.0>	
APTT	29.8	秒
Fbg	387	mg/ml

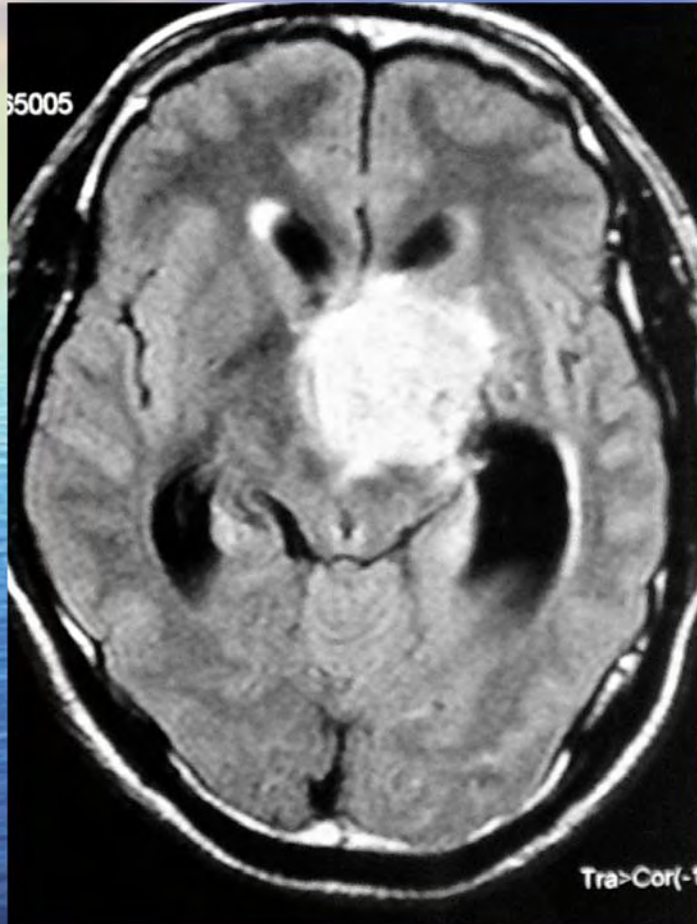
## <生化学>

AST	23	IU/L
ALT	36	IU/L
LDH	198	IU/L
ChE	333	U/L
T-Bil	0.8	mg/dl
ALP	303	IU/L
$\gamma$ GTP	40	IU/L
TP	7.9	g/dl
Alb	4.6	g/dl
UN	14	mg/dl
Cr	0.81	mg/dl
Na	140	mmol/l
K	4.3	mmol/l
Cl	104	mmol/l
CRP	2.58	mg/dl

## <内分泌・他>

TSH	5.77	$\mu$ IU/L
FT3	1.91	pg/ml
FT4	0.90	ng/ml
LH	4.7	mIU/ml
FSH	6.2	mIU/ml
PRL	14.7	ng/ml
GH	0.08	IU/L
ACTH	37.3	pg/ml
ADH	1.3	pg/ml
コルチゾール	25.1	$\mu$ g/dl
CEA	2.4	ng/ml
AFP	2	ng/ml

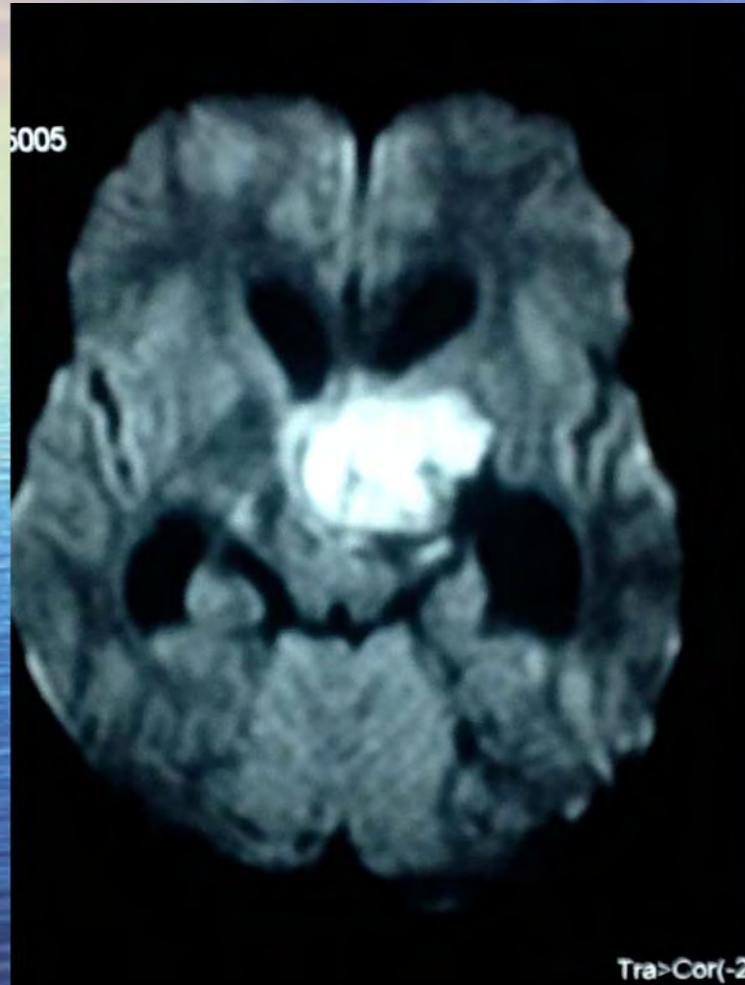
# 入院時画像所見



- FLAIR

視索視床下部レベルを中心に視床、基底核、内包に及ぶ境界明瞭な分葉状腫瘍を認める。

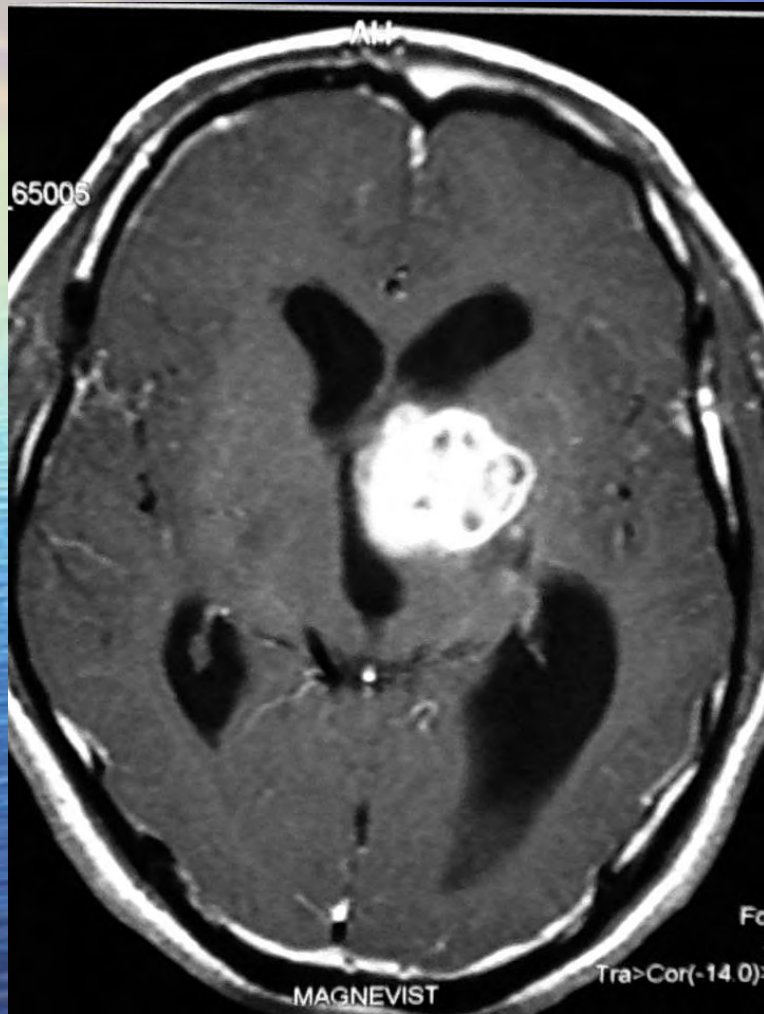
# 入院時画像所見



- DWI (b1000t)

腫瘍に一致して  
やや不均一な高信号  
を示している。

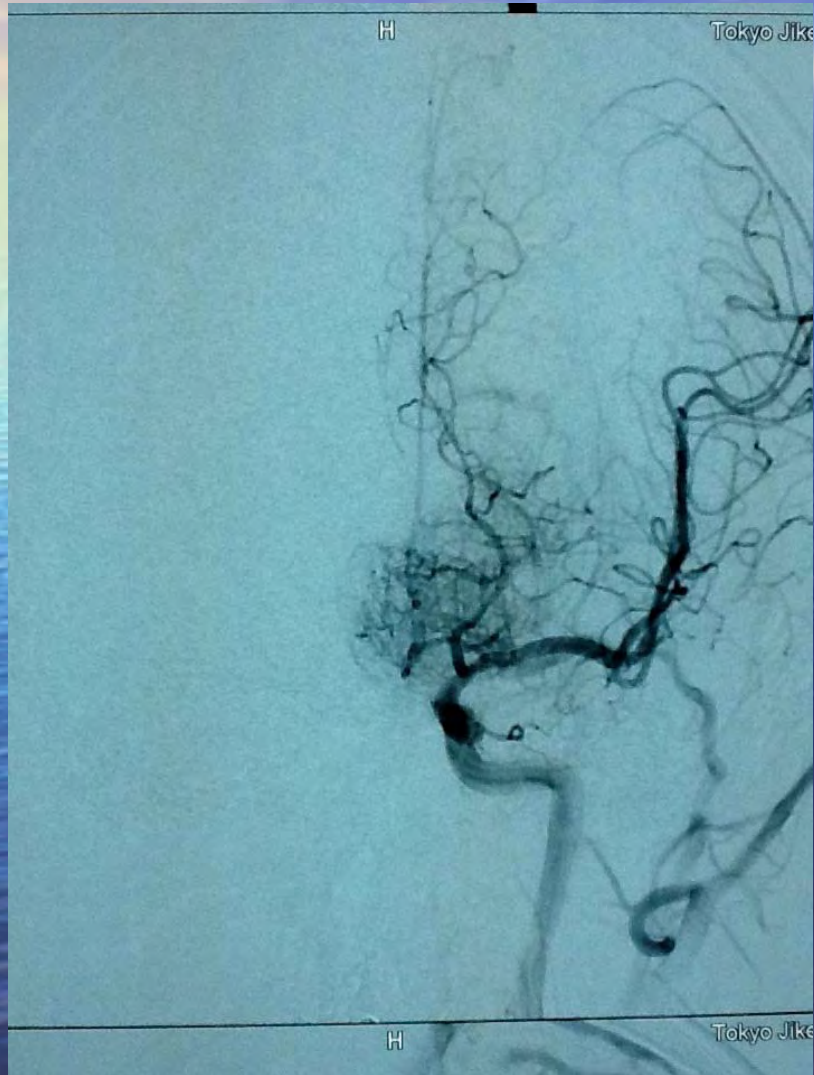
# 入院時画像所見



- T1Gd造影

Gdで内部不均一な強い造影効果を示している。

# 入院時画像所見



- 血管造影(第3病日)  
左内頸動脈造影

左MCA起始部からの  
血管に富んだ腫瘍を  
認める。



# 入院後経過

- 第3病日経脳室で組織診施行したところ、high grade glioma、膠芽腫の診断。
- その後、意識障害、認知機能障害は徐々に進行していった。
- 第14病日より放射線療法(計60Gy)+テモダール(75mg/m<sup>2</sup>)による化学療法を開始。

# 考察

- 星細胞系腫瘍      WHO分類
- diffuse astrocytoma (fibrillary, gemistocytic, protoplasmic) (WHO grade II)
- anaplastic astrocytoma (WHO grade III)
- glioblastoma (giant cell glioblastoma, gliosarcoma) (WHO grade IV)
- glioblastoma with oligodendroglioma component (WHO grade IV)
- gliomatosis cerebri (WHO grade IV)

- 星細胞系腫瘍

腫瘍組織型により実に種々なMRIでの信号強度を示す。

星細胞腫ではT1強調画像で低信号，FLAIRやT2強調画像で高信号を示す。

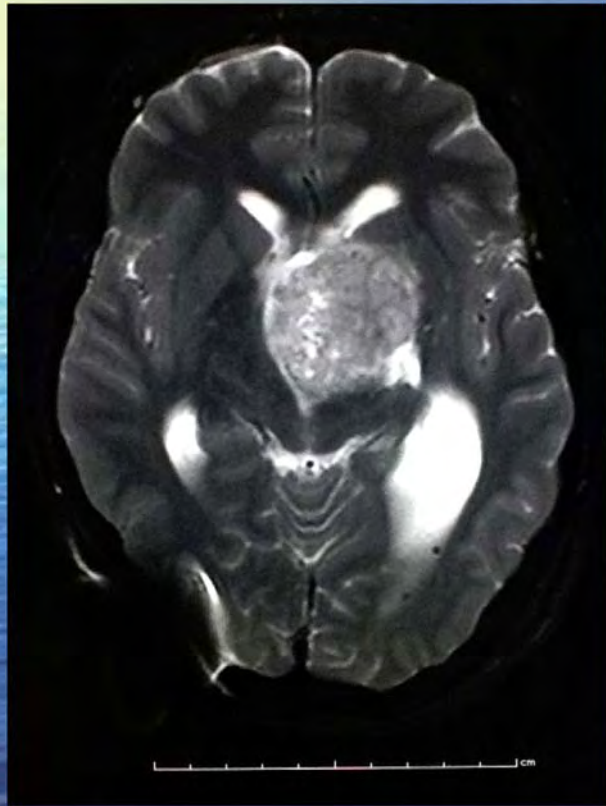
腫瘍に伴う脳浮腫も同様の信号強度を示すため，両者の境界を判別することは難しい。

造影剤による増強効果が得られないことも多い。

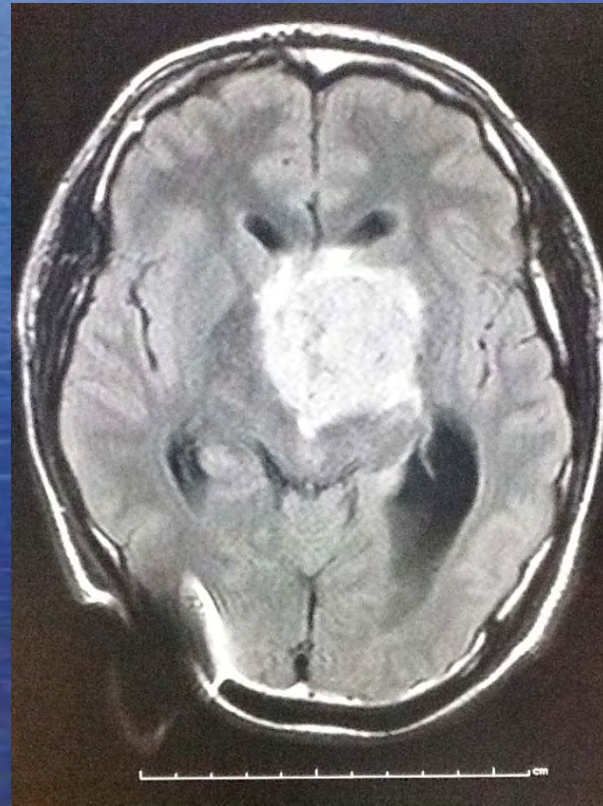
- 膠芽腫では、T1強調画像で低信号、FLAIRやT2強調画像で高信号を示す。
- 腫瘍実質部分は周囲の浮腫とやや異なった信号強度を示し、Gd-DTPAによる腫瘍の増強効果は顕著である。
- 好発部位は大脳半球である。
- 孤発性の転移性脳腫瘍、悪性リンパ腫などが鑑別にあがる。

# 本症例(第26病日)

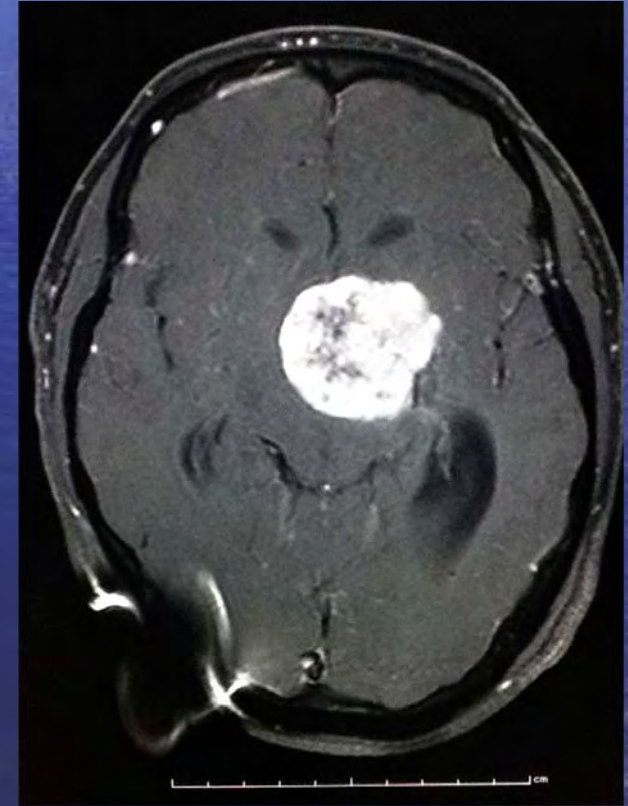
T2強調



FLAIR



T1Gd造影

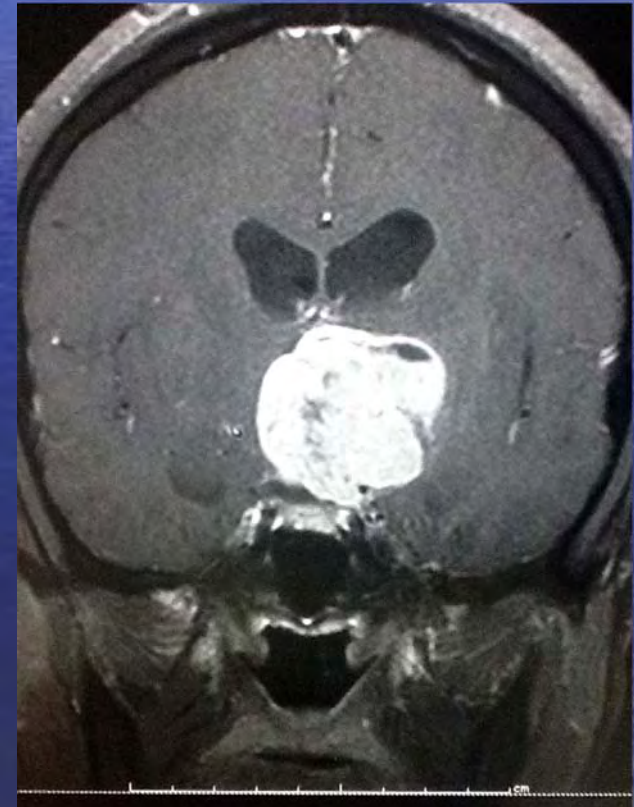
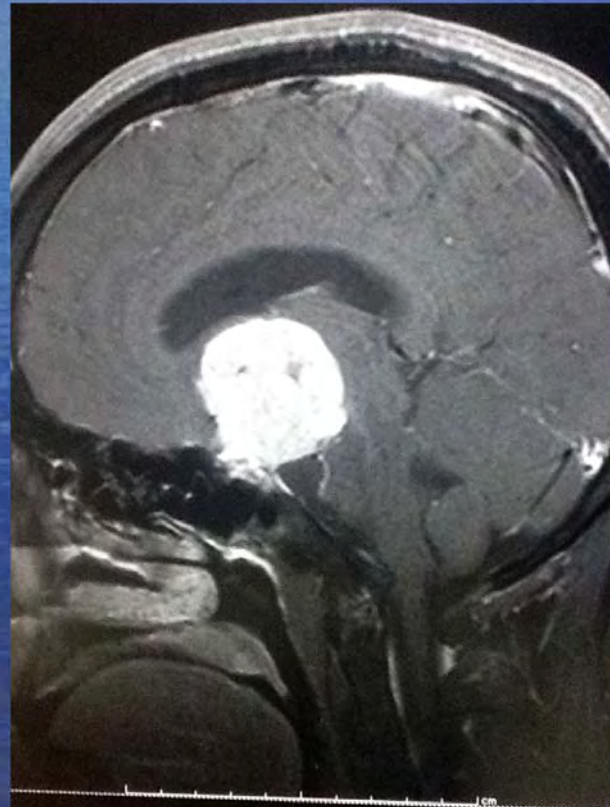
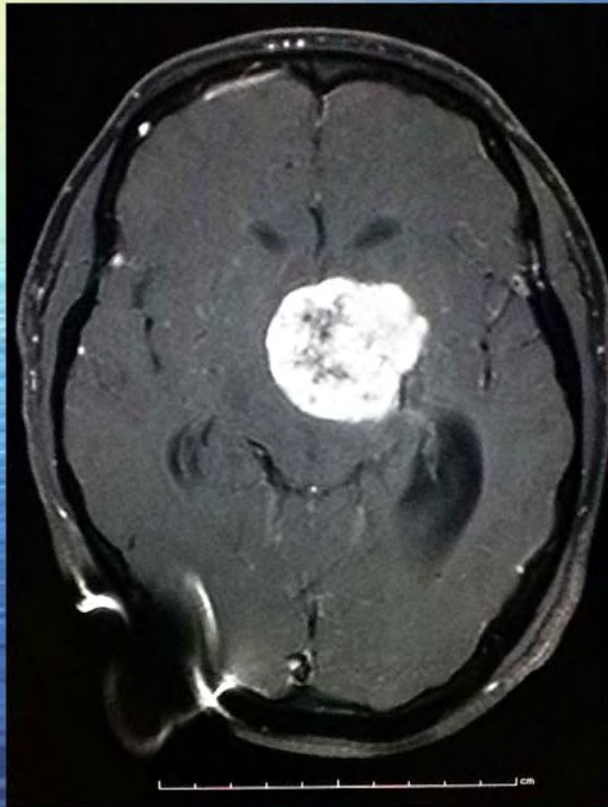


# 本症例(第26病日)

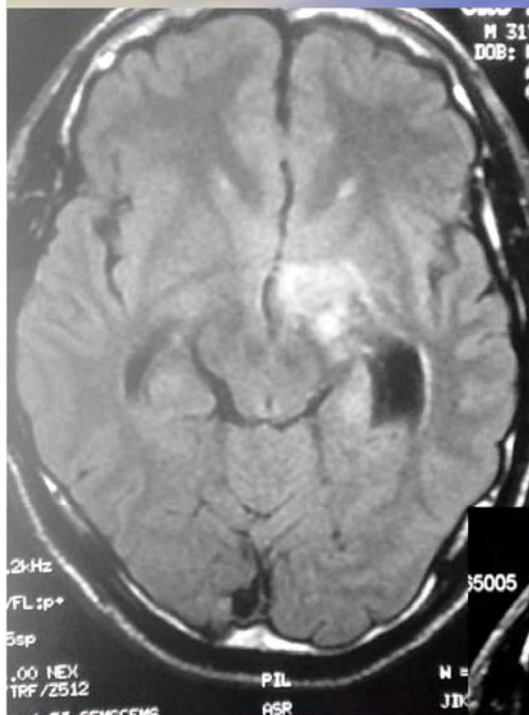
T1Gd造影 axi

sag

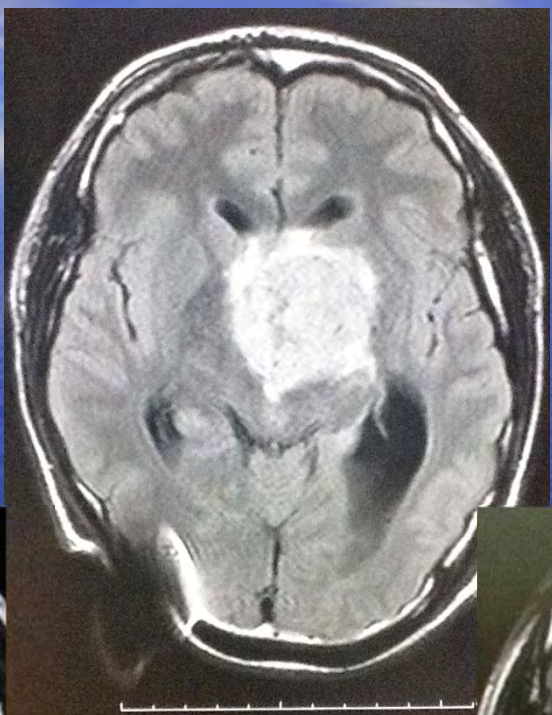
cor



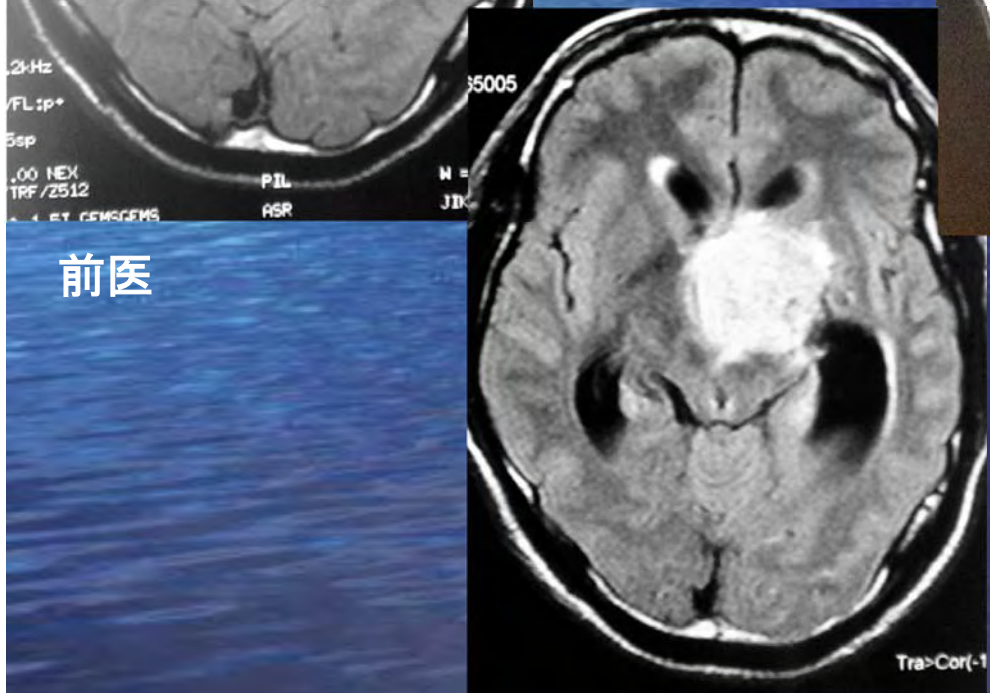
# 時間的經過



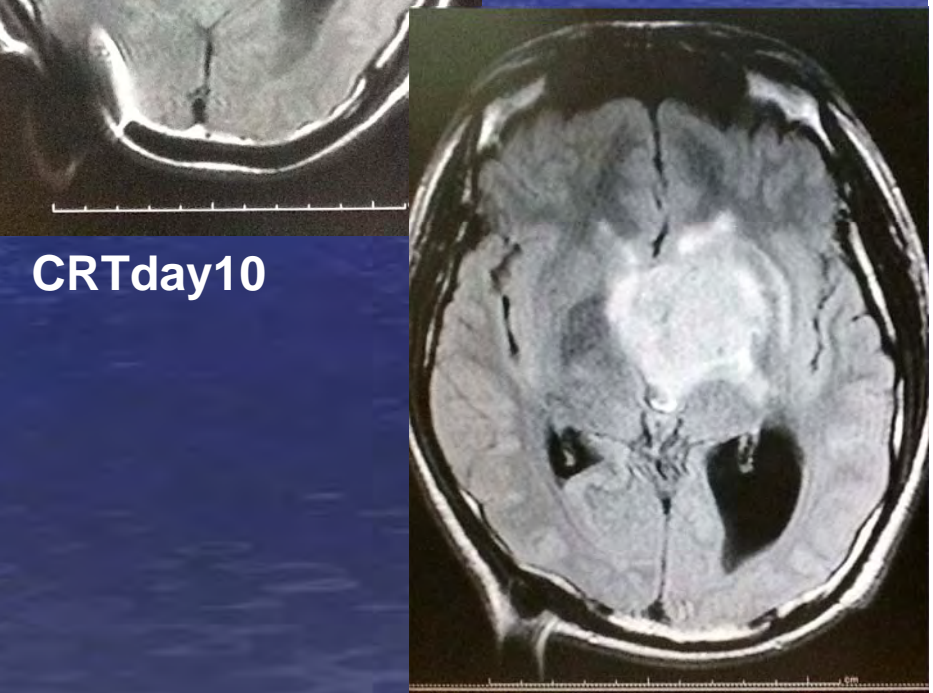
入院直前



CRTday37



前医



CRTday10

# 結語

- SAHによって発症し、発見された膠芽腫の1例を経験した。
- 膠芽腫の診断において造影効果の有無、時間的経過、好発部位を確認する必要がある。